

「福島県の妊産婦の皆様の健康を見守ります」

妊産婦に関する調査は、東日本大震災及び東京電力福島第一原子力発電所事故以降の福島県の妊産婦の皆さまのこころやからだの健康状態を把握し、不安の軽減や必要なケアを提供することを目的に開始されました。

【対象者】

毎年度、県内で母子健康手帳を交付された方、調査期間内に県外で母子健康手帳を交付され、県内で里帰り分娩をされた方。

調査年度	対象者	ご回答数	
2011年度	1万6001人	9316人 (58.2%)	出産約4年後に フォローアップ調査を実施
2012年度	1万4516人	7181人 (49.5%)	
2013年度	1万5218人	7260人 (47.7%)	
2014年度	1万5125人	7132人 (47.2%)	
2015年度	1万4572人	7031人 (48.3%)	
2016年度	1万4154人	7326人 (51.8%)	
2017年度	1万3552人	6449人 (47.6%)	
2018年度	1万2838人	6649人 (51.8%)	

対象者	ご回答数	
7252人	2554人 (35.2%)	
5602人	2021人 (36.1%)	
5734人	2706人 (47.2%)	
5856人	2719人 (46.4%)	

【調査方法】

対象となる妊産婦の方へ調査票をお送りし、回答いただきます。

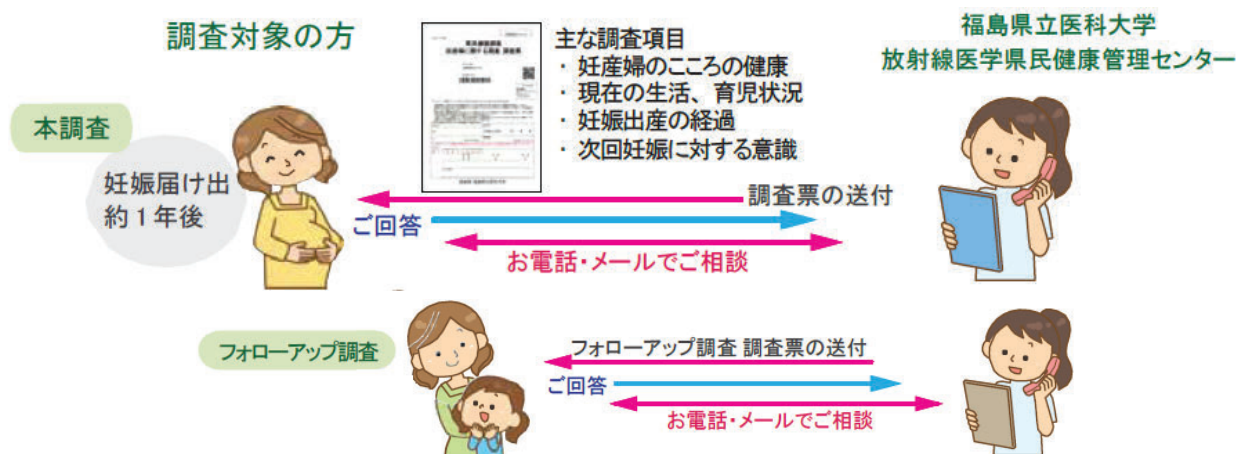
(2016年度調査より、回答は郵送またはオンラインで受付)

主な調査項目は、次のとおりです。

- ・妊産婦のこころの健康度
- ・現在の生活状況（避難生活、家族離散の状況）
- ・出産状況や妊娠経過中の妊産婦の健康状態
- ・育児の自信
- ・次回妊娠に対する意識

福島県立医大放射線医学県民健康管理センターウェブサイト、第37回福島県「県民健康調査」検討委員会資料より作成

【調査の流れ】



1回目（出産4年後）：平成23～26年度の調査に回答いただいた方に、平成27～30年度に実施
2回目（出産8年後）：平成23・24年度の調査に回答いただいた方に、令和元年・2年度に実施

【2020年度妊産婦に関する調査】 2016年度調査からオンライン回答を始めています。

●本調査

- ①2019年8月1日から2020年7月31日に福島県内の市町村から母子健康手帳を交付された方
- ②上記期間に福島県外で母子健康手帳を交付された方で、福島県で里帰り出産された方

●フォローアップ調査 2回目

2012年度調査に回答いただいた方

福島県立医大放射線医学県民健康管理センターウェブサイト、妊産婦に関する調査リーフレットより作成

【支援対象者の推移】

調査票にご回答いただいた方のうち、記載内容から支援が必要と判断された方を対象に専任の助産師等による電話やメール支援を行っています。

調査年度	電話支援 対象者数	回答者の 支援者の割合	調査年度	電話支援 対象者数	回答者の 支援者の割合
2011年度	1,401人	15.0%	2011年度フォローアップ調査	375人	14.7%
2012年度	1,104人	15.4%	2012年度フォローアップ調査	256人	12.7%
2013年度	1,101人	15.2%	2013年度フォローアップ調査	393人	14.5%
2014年度	830人	11.6%	2014年度フォローアップ調査	380人	14.0%
2015年度	913人	13.0%			
2016年度	951人	13.0%			
2017年度	799人	12.4%			
2018年度	711人	10.7%			

【電話による相談内容】

本調査

	2011年度	2012年度	2013年度	2014～2017年度 (同じ順位でした)	2018年度
1位	放射線の 心配や影響	母親の ころや身体 の健康	母親の ころや身体 の健康	母親の ころや身体 の健康	母親の ころや身体 の健康
2位	母親の ころや身体 の健康	子育て関連	子育て関連	子育て関連	子育て関連
3位	子育て関連	放射線の 心配や影響	子どもの ころや身体 の健康	家庭生活に 関すること	子どもの ころや身体 の健康

フォローアップ調査

	2015年度 2011年度 回答者	2016年度 2012年度 回答者	2017～2018年度 2013～2014年度 回答者
	母親の ころや身体 の健康	母親の ころや身体 の健康	母親の ころや身体 の健康
	放射線の 心配や影響	子育て関連	子育て関連
	子育て関連	子どもの ころや身体 の健康	家庭生活に 関すること

「子育て関連」の具体的な内容は、離乳食、夜泣き、便秘、予防接種など

第37回福島県「県民健康調査」検討委員会資料より作成

【早産率、低出生体重児率、先天奇形・先天異常発生率】

早産率、低出生体重児率、先天奇形・先天異常発生率は全国調査の値や一般的な水準と変わりませんでした。

	早産率 (%)※※		低出生体重児率 (%)※※		先天奇形・先天異常発生率 (%)	
	本調査	全国調査	本調査	全国調査	本調査	一般的な水準
2011年度	4.6	5.7	8.6	9.6	2.85	
2012年度	5.6	5.7	9.2	9.6	2.39	
2013年度	5.2	5.8	9.6	9.6	2.35	
2014年度	5.3	5.7	9.8	9.5	2.30	3～5
2015年度	5.6	5.6	9.4	9.5	2.24	(2020産科診療 ガイドラインより)
2016年度	5.3	5.6	9.2	9.4	2.55	
2017年度	5.3	5.7	9.2	9.4	2.38	
2018年度	5.2	5.6	9.0	9.4	2.19	

※※死産であった方を除いて再集計したため、報告書の値と異なります。

早産：妊娠22週から37週未満で生まれた赤ちゃん、低出生体重児：2500gよりも小さく生まれた赤ちゃん

全国調査：人口動態統計における年単位の割合

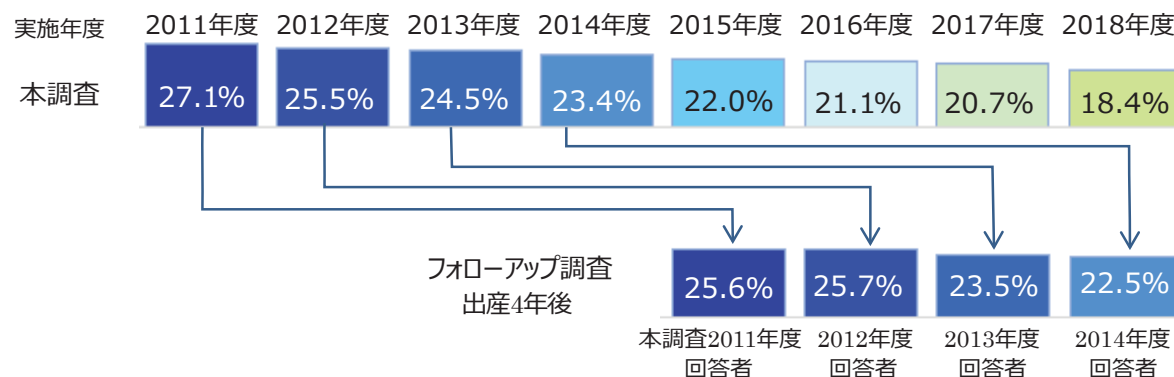
第37回福島県「県民健康調査」検討委員会資料より作成

【妊産婦のうつ傾向の推移】

「気分が沈みがち」「物事に興味がわかない」という設問に、両方あるはいずれかに当てはまると回答された方の割合



妊産婦さんのうつ傾向は徐々に減ってきています



【“次回の妊娠・出産をお考えですか？” の設問に「はい」と答えた方の推移】

全国調査		本調査						
2010年	2015年	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
51.0%	50.0%	52.9%	52.8%	57.1%	53.3%	54.6%	52.4%	52.2%

全国調査2010 : 「平成22年第14回出生動向基本調査」結婚10年未満で子どもを予定している割合 (既に子どもがいる場合)

全国調査2015 : 「平成27年第15回出生動向基本調査」結婚10年未満で子どもを予定している割合 (既に子どもがいる場合)

※2011年度調査は 設問項目なし

第37回福島県「県民健康調査」検討委員会資料より作成